

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	研究科におけるグローバルヒストリーの枠組みを取り入れた専門教育の推進				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ
	研究協力者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	長野 明子
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	志田 雅宏
		所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	山本 健介
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ

講演題目
研究科におけるグローバルヒストリーの枠組みを取り入れた専門教育の推進
研究の目的、成果及び今後の展望 目的: 国際関係学研究科・比較文化専攻においては、「東西文化交流史 A/B」が、2019 年度頃から開講されておらず、廃止の可能性について、アジア文化研究分野において、2023 年度と 2024 年度に検討された。一方、2000 年代以降、地域研究においてはグローバルヒストリーの枠組みをとり入れた歴史へのアプローチが新しい潮流として若手の研究者たちの関心を集めており、優れた博士論文などが発表されているにも関わらず、当研究科ではそれらを紹介・議論する科目がない。そのため、本研究では、研究科におけるグローバルヒストリーの枠組みを取り入れた専門教育の推進にむけて諸分野の教員で勉強会を行い、①「東西文化交流史 A/B」の廃止の是非の検討、②「グローバルヒストリー概論（仮）」などとしてリメイクする可能性の検討、および、③ ②の結論が肯定的な場合には、令和 8 年ないし令和 9 年の開講をめざしたオムニバス授業のシラバス案の作成、を目指す。 成果: メンバー四人が、それぞれの専門領域（東南アジア研究、言語学、宗教学、中東地域研究）において、「グローバルヒストリー」の枠組みを用いた知見の構築の可能性と教育の可能性について研究し、共有した。2000 年代以降の国内外のグローバルヒストリーの興隆、またその枠組みの多義性を確認した。同時に「東西文化」という呼称の問題点も共有した。検討の結果、「東西文化交流史 A」を 2026 年度前期に試験的に、オムニバス授業として開講することとなり、その準備も合わせて行なった。なお、科目名の変更については、将来の検討課題とすることとした。 今後の展望: 2026 年度後期には、前期の授業を振り返り、今後の授業運営、および、それに関連した研究活動の可能性を検討する予定である。また、研究科内で、専攻領域を超えた教員たちが、それぞれの専門領域での知見を持ち寄り、文系の研究の斬新な視座を軸に、研究をとおして横のつながりが促進されたことは、意義深い。また、今後は、国内外の著名な研究者を招いての講演会なども企画していきたい。